

解答 1～2年 資料の活用

① 0.24

⇒ 48分の記録を含む階級は46分以上49分未満で、度数は12人だから、その階級の相対度数は

$$\frac{12}{50} = 0.24$$

②(1) ア

(2) 速い方から4人が含まれる階級は、2組が6.6秒以上7.0秒未満の階級であるのに対し、1組は7.0秒以上7.4未満の階級であるため、4人の記録の合計は2組の方が速い。

(したがって、2組の方が速そうである。)

⇒(1) 全員で走るのだから、平均値で比べればよい。

(2) 上位4人の記録に注目する。

③ $3.65 \leq a < 3.75$

⇒ 3.75の小数第2位を四捨五入すると3.8になるから、3.75は a の値の範囲に含まれない。

④ 中央値(メジアン) 6匹

最頻値(モード) 2匹

⇒ 中央値は、資料を小さいほうから順に並べたときの中央にある値のことである。資料は50で偶数だから、中央に並ぶ25番目と26番目の合計を2でわった値である。25番目と26番目の値はどちらも6であるから、中央値は6匹である。

最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値である。

最も人数が多いのは8人で、そのときの値は2である。

⑤ $\frac{5}{8}$

⇒ 3枚の硬貨の出方について、次のような樹形図をかいて調べるとよい。

500円硬貨	100円硬貨	50円硬貨	合計金額
表	表	表	650円
		裏	600円 ○
	裏	表	550円 ○
		裏	500円 ○
裏	表	表	150円 ○
		裏	100円 ○
	裏	表	50円
		裏	0円

起こりうるすべての場合は8通りあり、そのどれが起こることも同様に確からしい。このうち、合計金額が100円以上600円以下になる場合は○印がついた5通りである。

⑥ $\frac{17}{36}$

⇒ 30の約数は、1, 2, 3, 5, 6, 10, 15, 30である。

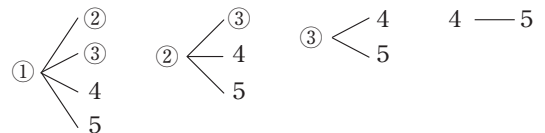
次のような表をかいて調べるとよい。

大 \ 小	1	2	3	4	5	6
1	○	○	○		○	○
2	○		○		○	
3	○	○			○	
4						
5	○	○	○			○
6	○				○	

起こりうるすべての場合は36通りあり、そのどれが起こることも同様に確からしい。このうち、2つの目の数の積が30の約数になる場合は○印がついた17通りである。

⑦ $\frac{7}{10}$

⇒ 赤玉を①, ②, ③とし、白玉を4, 5として、玉の取り出し方について、次のような樹形図をかいて調べるとよい。



起こりうるすべての場合は10通りあり、そのどれが起こることも同様に確からしい。このうち、少なくとも1個が白玉である場合は7通りである。